

## キューバ②

## 美郷で3年次のステップへ

## 白道のカミリーノ便り



作品づくりに没頭する妻ベアトリーチェ＝筆者写す

「これが最後になるかも知れないから、キューバへ行こう」  
我が家のカピタンたる妻ベアトリーチェの一言には逆らえない。あれこれ思案する間もなく、3カ月も先のことなのにキューバまでの航空券を買った。もう後戻りできない。

ドミニカ共和国に住んでいた時、キューバは近い国だった。それぞれ首都のサントドミンゴからハバナまで飛行機で2時間くらいだったかと思う。

常夏のカリブ海から、凍てつい

た12月の美郷に来てすでに3年になる。「キューバへ行こう」と言った時、返答に困った訳は私の側にもあった。

キューバは近くないと思った。単に距離や時間の問題だけではない。美郷での3年間で、私の内側の何かが萎縮し始めていた。

美郷に来るまでの10年間ほど、北欧のスウェーデン、東欧のリトアニア、中南米のドミニカ共和国で暮らし、日本には時々ちょっと帰るだけという暮らしをしてきた。その頃は、どこへ行くにも遠いと思ったことはない。

元々、ポルトガルかスペインの南の方に小さな工房を持ち、数カ月ずつ行ったり来たりする計画だった。美郷の工房の設備投資に思わぬ時間と資金を使ったが、そろそろ次のステップに進む頃だとも感じていた。

さびつき始めた脳髓をカリブの風にさらすのも良いかもしれない。(つづく)